

「同志に誘われて・・・」

令和3年度在宅ケア認定看護師教育課程 研修生

入江 賀誉子（徳島県：ほまれ訪問看護ステーション）

同志に誘われ、長年の夢でもあり、憧れでもあった認定看護師教育課程に入学しました。

初めのうちは、eラーニングでの受講が楽しく進めていけましたが、苦手な講義があったり、仕事の忙しさがあってモチベーションが下がりました。そこで、両立できる方法を考え、職場と家族に協力をお願いしました。月曜日から水曜日は仕事を中心にして、木曜日から土曜日は学習としました。そうすることによって時間をうまく使えるようになり、楽になりました。

事前課題に看護過程の展開があり、気づいたことがありました。今までの27年間の訪問看護において、アセスメント・計画・実施・評価を当たり前のようになってきましたが、アセスメントの項目をなぜ見る必要があるのか考えたり、明確な根拠に基づいて書いていなかったりしていたことです。本を読み学習をする必要性を感じつつ、考えたことを言語化して伝えることに取り組んでいます。

入学式の自己紹介やグループセッションで「一人じゃない・仲間がいる」という安心感を持つことができました。大変であっても、「みんな頑張っていて、熱い思いがある」と励まされました。1年間、モチベーションを保って行けるか不安はありますが、目標に向かい努力したいと思っています。

マイケル・ジョーダン曰く「目標を達成するには、全力で取り組む以外に方法はない。そこに近道はない。」確かにそう思います。



訪問看護ステーションのスタッフとともに

（右上：入江賀誉子研修生）